

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 則松 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

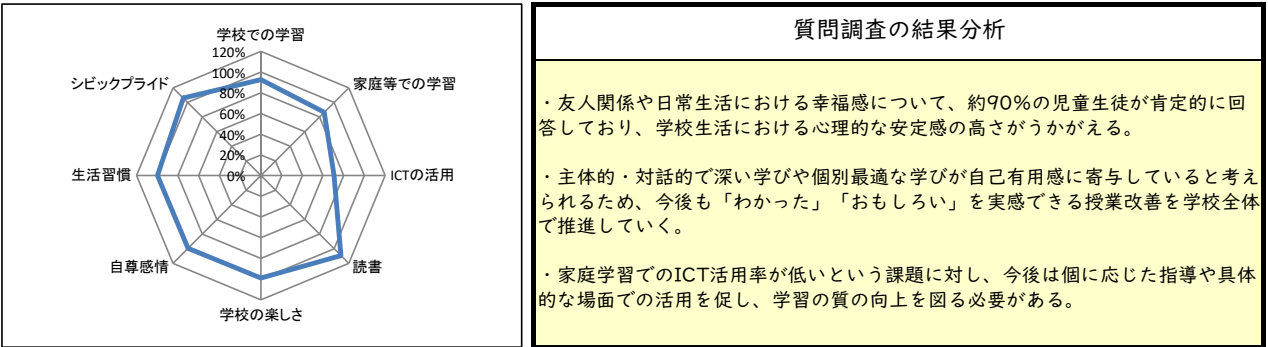
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率が55.0%で全国平均54.3%を、0.7%上回った。特に読むことが強みで64.7%であり、全国62.3%と高かった。その一方、記述式の正答率が低めであり、特に短答式での正答率は70.8%と全国平均73.6%を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	平均正答率が50.0%で全国平均48.3%を1.7%上回った。特にデータの活用が強みで62.8%であり、全国58.6%と高かった。その一方、選択式は全体で全国比-0.9%であり、特に証明の振り返りから新たなことを見いだす設問で、-6.8%と差が大きい。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	証明された事柄を基にして新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	平均正答率が54.9%で全国平均51.5%を3.4%上回った。特に探究の過程を言語化する記述問題や、実験計画・根拠説明を問う問題で全国平均を8%前後と大きく上回っている。一方、回路の基本や呼吸の見極めが課題で、直列・並列と発熱量では-12.9%と差が大きい。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

国語では文章構造の理解と記述の質の向上、数学では関数・証明の基礎の確実な理解、理科では電流・抵抗の関係や生物の基本概念など、基礎事項の取りこぼしを補う学習機会を充実させる。あわせて、各教科で共通する「理由を基に説明する力」を横断的に育成し、思考の可視化と言語化を重視した授業改善を進める

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習におけるICT活用の定着 活用率の低さを解消するため、英語学習やAIドリルによる個別学習など、家庭でも取り組みやすい具体的な活用場面を提示し、ICTを用いた自学自習を習慣化させる。